

景況レポート

(6月分・情報連絡員80名)

D I 値はほぼ横ばいで推移

～自動車販売は依然好調～

【概況】6月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.3%(前月調査13.8%)、「悪化」が31.3%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-20.0となり、前月調査と比較して1.2ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-28.1で前月調査(-25.0)と比較して3.1ポイント下回った。また、非製造業全体のDI値は-14.6で前月調査(-18.7)と比較して4.1ポイント上回った。

製造業では、コンビニの影響で売上が減少したり、生産調整などにより前月を下回り、逆に非製造業では、昨年の買い控えの反動から消費が回復したことなどにより前月を上回っている。また、自動車販売がエコカー減税・補助金により依然好調である一方で石油価格は大幅に下落している。

(回答数:80名 回答率:100%)

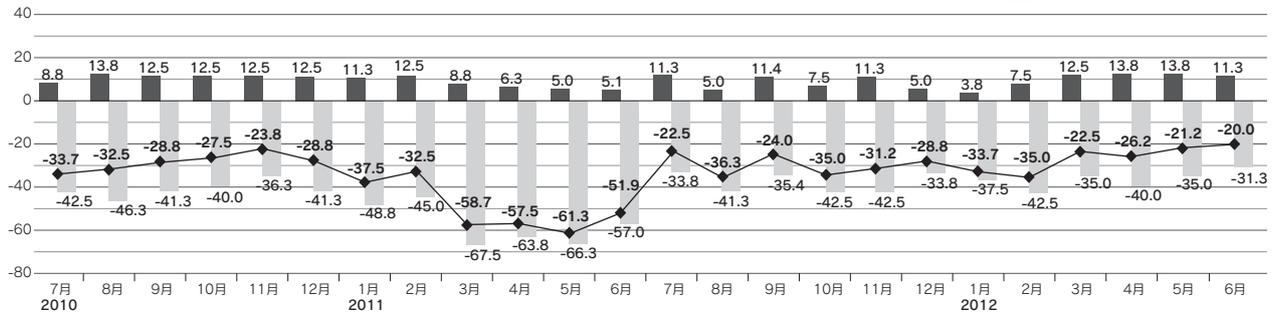
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種	製造業	非製造業	製造業	非製造業	製造業	非製造業

【凡例】

 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

パン製造	6月後半の高温の影響により、消費が一気に冷え込み、売上不振となった。また、県南でオープンしたコンビニの影響により、地元スーパーやコンビニでパンの売上が落ちた。
繊維製品	例年であれば秋冬物の受注が始まる時期だが、各アパレルメーカーからの情報が少なく、生産は減少した。月の後半には多少の発注が出たものの、資材等の投入が遅れ、生産計画が立てにくい状況であった。
一般製材	販売価格は下落基調にあり、生産調整(減産)を行う合板メーカーが多くなっている。このまま需給の調整が進めば、価格面での回復が期待される。
生コン	6月の出荷数量は前年同月比129.6%。4月～6月累計で前年比128.4%。県北部は日沿道工事、県南部は統合中学校等と需要はあるが、中央部は日赤跡地の大型工事も終了し、目立った物件がない状況。
機械金属	5月の売上高は639,253千円と前年同月比113.4%、前月比で103.5%であった。受注残は2,110,562千円で、前年同月比119.6%、前月比103.4%となっている。全体的に少しではあるが売上が前月より増加した企業が多い。
自動車販売	6月の新車販売台数は、登録自動車2,463台(前年同月比117.5%)、軽自動車2,729台(同140.1%)で、合計5,192台(同128.4%)とコンパクトカーや軽自動車を中心に大幅に増加した。エコカー減税・補助金の効果が続いているものとみられる。
石油販売	ガソリンは1ℓあたり139円10銭で前月比10円90銭の下げ、軽油は1ℓあたり123円80銭で前月比7円80銭の下げ、配達灯油は18ℓで1,651円で前月比96円の下げとなった。ともに10週連続の値下げとなり、販売の減少とマージンの悪化により苦戦している。
商店街	「家電販売」はエコポイントの反動で前年同月比3割減で例年並みの売上げだった。「身の回り品」は震災前の状況に戻り、高級品が売れるようになった。「生花販売」は震災前よりやや良い状況となっている。
型枠工事	県内全域において、稼働率が高い状況が続いている。県北・中央・県南地区それぞれに学校・病院等の大規模物件が着工しており、9月頃までは継続的に忙しいと思われるが、その後については各社で多少温度差がある状況となっている。
トラック	数量、収入とも対前年同月比で5%減となっており、品目別では自主米が20%減少となった。これは、価格競争により低単価の業者へ流れ、分散化しているためとみられる。自動車部品は、震災で減少した分の回復により30%増となっている。